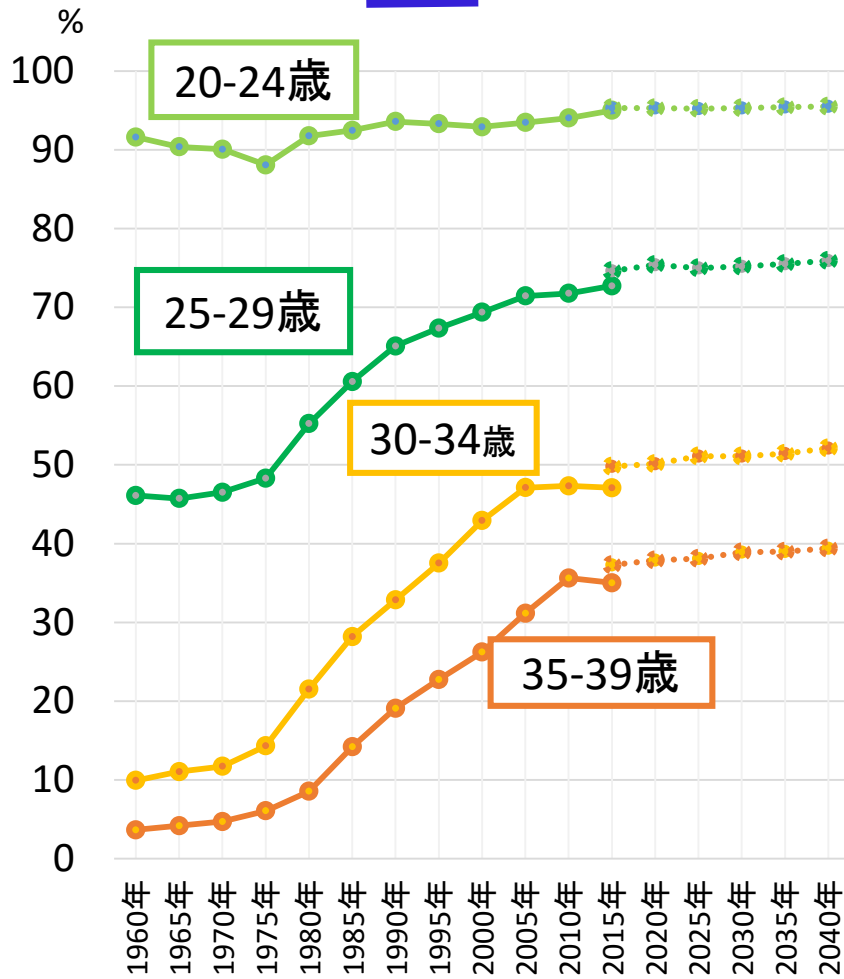


なぜ未婚者が増えているのか —その背景分析—

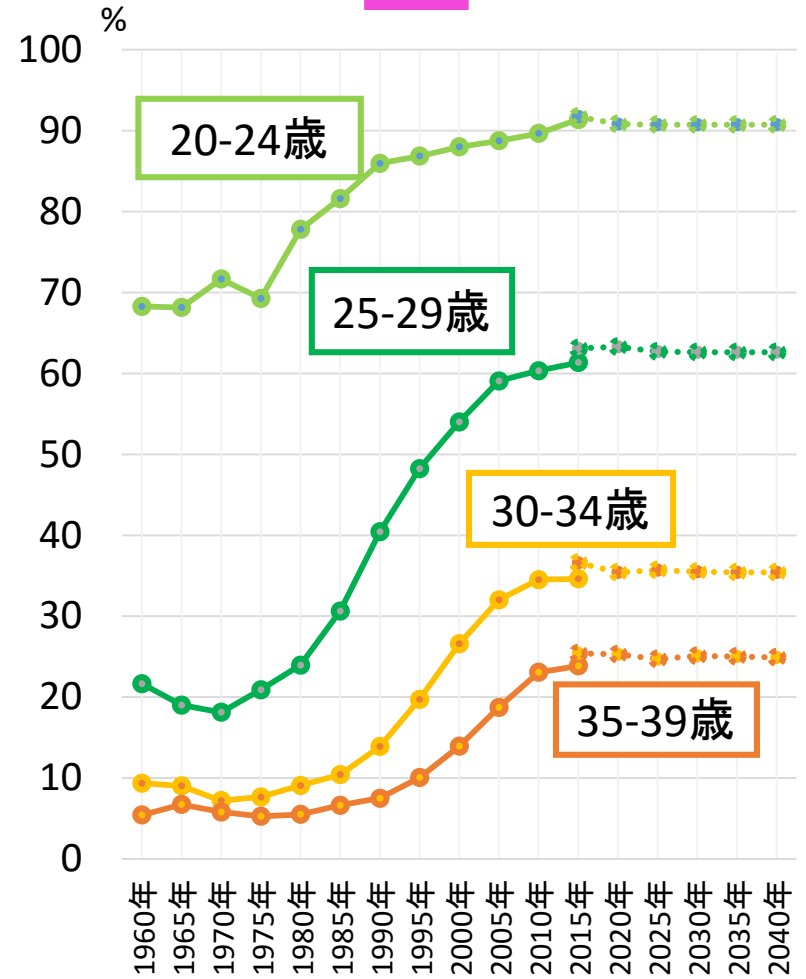
奥愛・瀬領大輔

日本の未婚率の推移

男性



女性

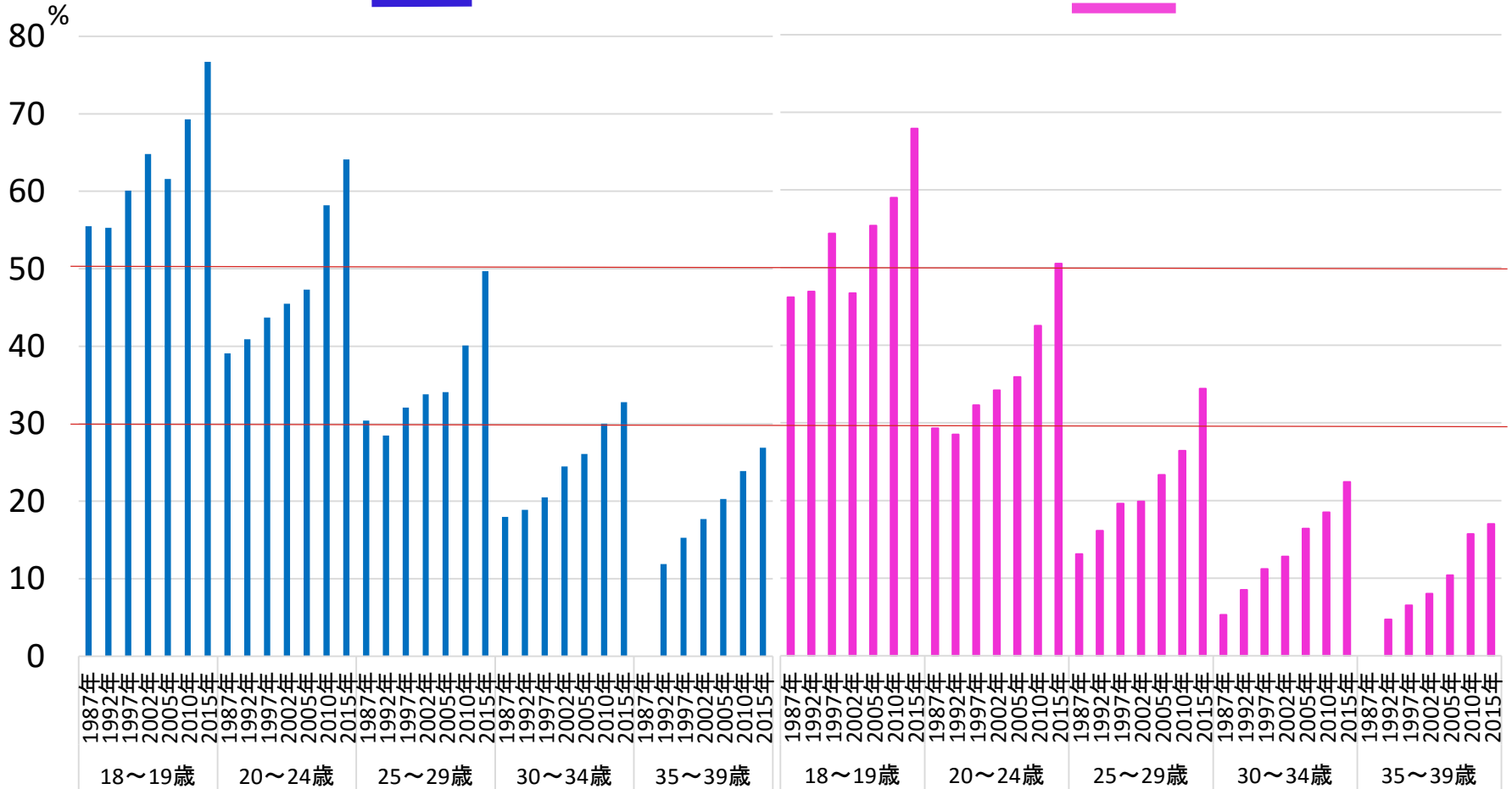


交際している人がいない独身者の推移

質問:「あなたには現在、交際している異性がありますか」に対し、「交際している異性はいない」の回答割合

男性

女性



(注) 出所の注には、「国勢調査から推定される本調査(第9回~第15回)各年次の配偶関係構成(離別死、有配偶、未婚)と、本調査から得られる未婚者の交際状況から各年齢層でのパートナーシップの状況を推定したもの」と記されている。1987年の35~39歳のデータはなし。

(出所) 社人研『第15回出生動向基本調査』(2015年)独身者調査の結果概要図表 I-2-3より作成。

独身でいる理由(2015年調査)

質問:「あなたが現在独身でいる理由は、次の中から選ぶとすればどれですか」

	最大の理由	第二の理由	第三の理由	
男性	18～19歳	結婚するにはまだ若過ぎる	今は、仕事(または学業)にうちこみたい	結婚する必要性をまだ感じない
	20～24歳	結婚するにはまだ若過ぎる	今は、仕事(または学業)にうちこみたい	結婚する必要性をまだ感じない
	25～29歳	適当な相手にはまだめぐり合わない	結婚する必要性をまだ感じない	結婚資金が足りない
	30～34歳	適当な相手にはまだめぐり合わない	結婚する必要性をまだ感じない	独身の自由さや気楽さを失いたくない
	35～39歳	適当な相手にはまだめぐり合わない	結婚する必要性をまだ感じない	独身の自由さや気楽さを失いたくない

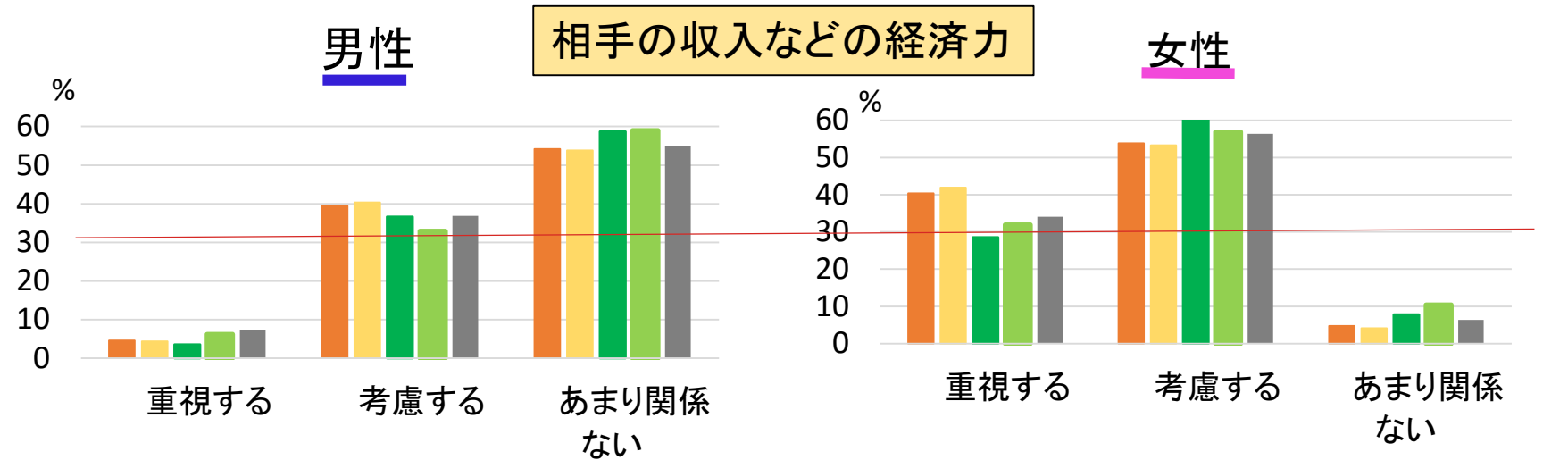
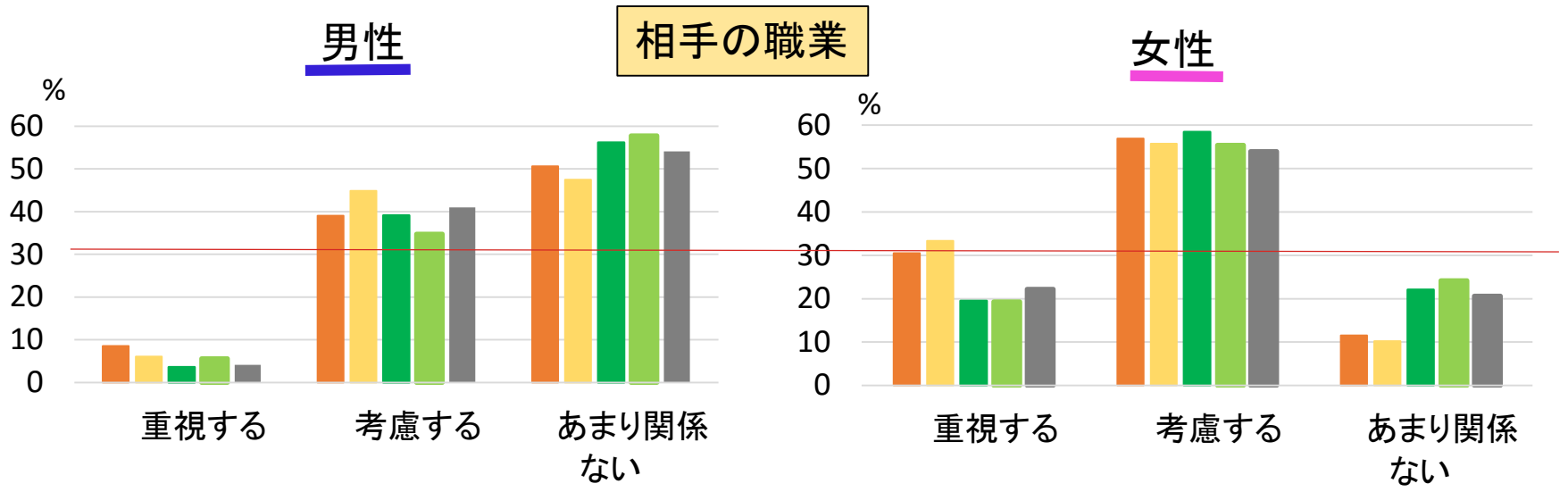
	最大の理由	第二の理由	第三の理由	
女性	18～19歳	結婚するにはまだ若過ぎる	今は、仕事(または学業)にうちこみたい	結婚する必要性をまだ感じない
	20～24歳	今は、仕事(または学業)にうちこみたい	適当な相手にはまだめぐり合わない	結婚するにはまだ若過ぎる
	25～29歳	適当な相手にはまだめぐり合わない	独身の自由さや気楽さを失いたくない	結婚する必要性をまだ感じない
	30～34歳	適当な相手にはまだめぐり合わない	独身の自由さや気楽さを失いたくない	結婚する必要性をまだ感じない
	35～39歳	適当な相手にはまだめぐり合わない	独身の自由さや気楽さを失いたくない	異性とうまく付き合えない

(注)「最大の理由」「第二の理由」「第三の理由」の回答者数をそれぞれ5、3、1で重みづけしたうえで、回答数が最も多かった選択肢を第1位から第3位まで掲載。

(出所)社人研『第15回出生動向基本調査』統計表:独身者調査のクロス集計主要結果表5-4より作成。

独身者の結婚相手の条件

質問:「あなたは結婚相手を決めるとき、次の項目について、どの程度重視しますか」

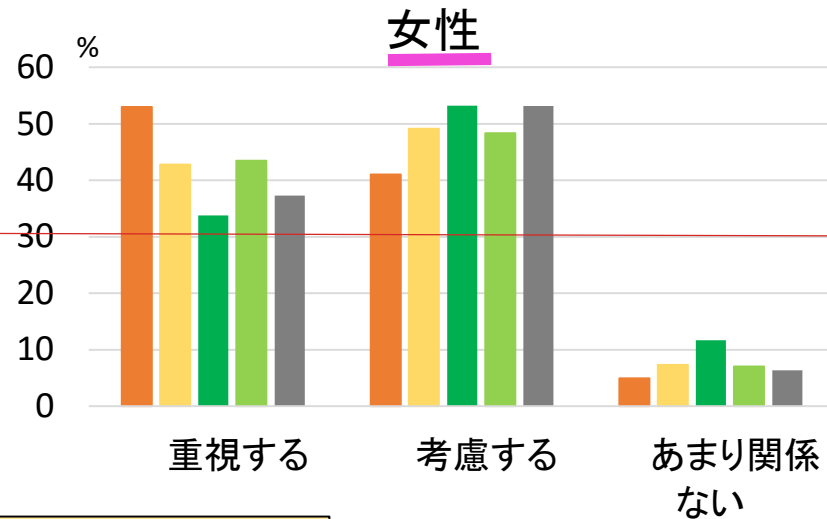
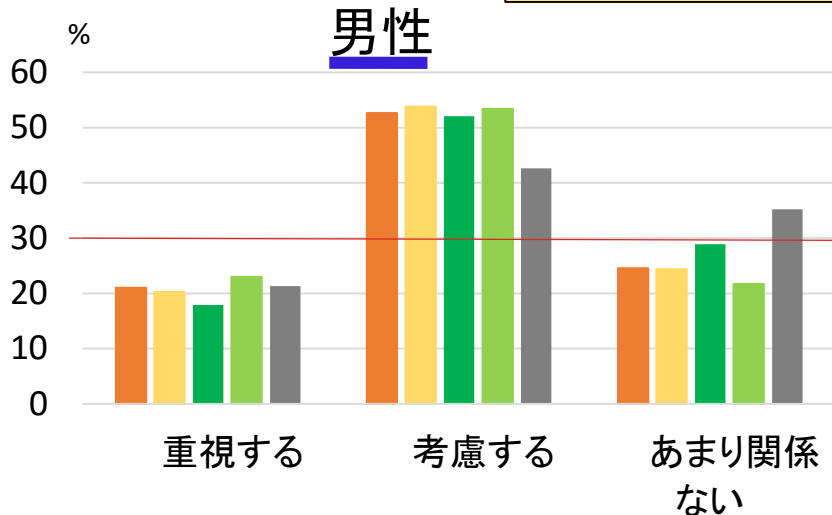


■ 専門職・管理職
 ■ 事務職・販売・サービス職
 ■ 工場などの現場労働
 ■ パート・アルバイト
 ■ 無職・家事

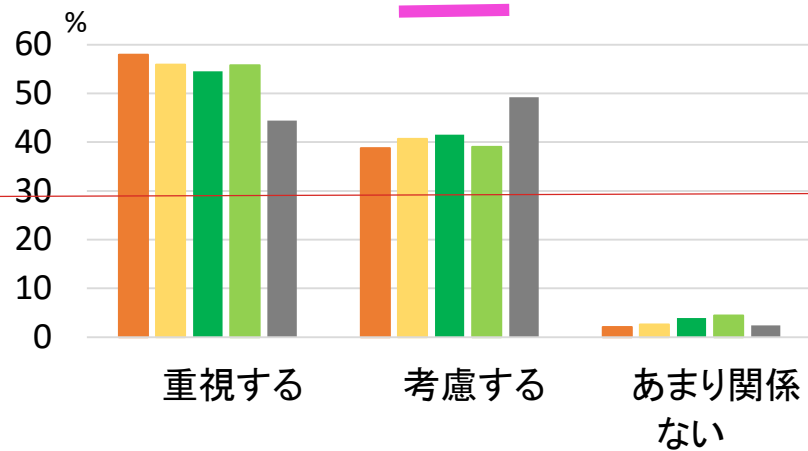
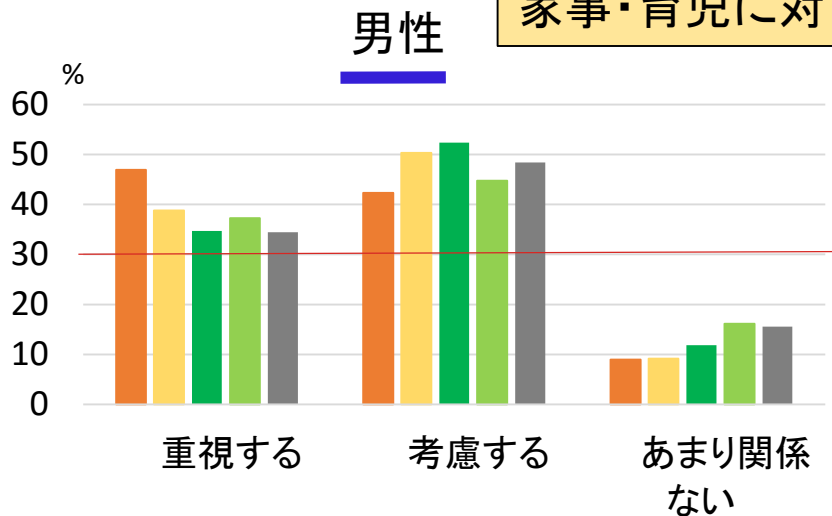
(注)対象は「いずれ結婚するつもり」と回答した未婚者。選択肢回答のうち「不詳」欄は省略して記載。

(出所) 社人研『第15回出生動向基本調査』統計表: 独身者調査のクロス集計主要結果表7-2より作成。

自分の仕事に対する理解と協力



家事・育児に対する能力や姿勢



■ 専門職・管理職 ■ 事務職・販売・サービス職 ■ 工場などの現場労働 ■ パート・アルバイト ■ 無職・家事

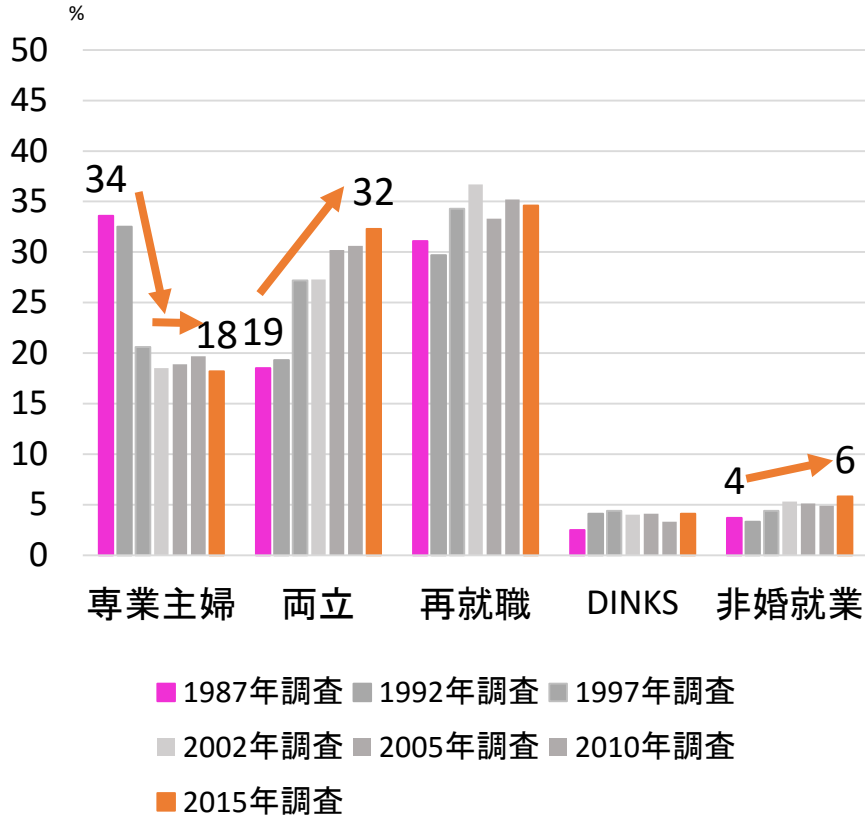
(注) 対象は「いずれ結婚するつもり」と回答した未婚者。選択肢回答のうち「不詳」欄は省略して記載。

(出) 社人研『第15回出生動向基本調査』統計表: 独身者調査のクロス集計主要結果表7-2より作成。

独身女性の「理想とする人生」と「実際になりそうな人生」

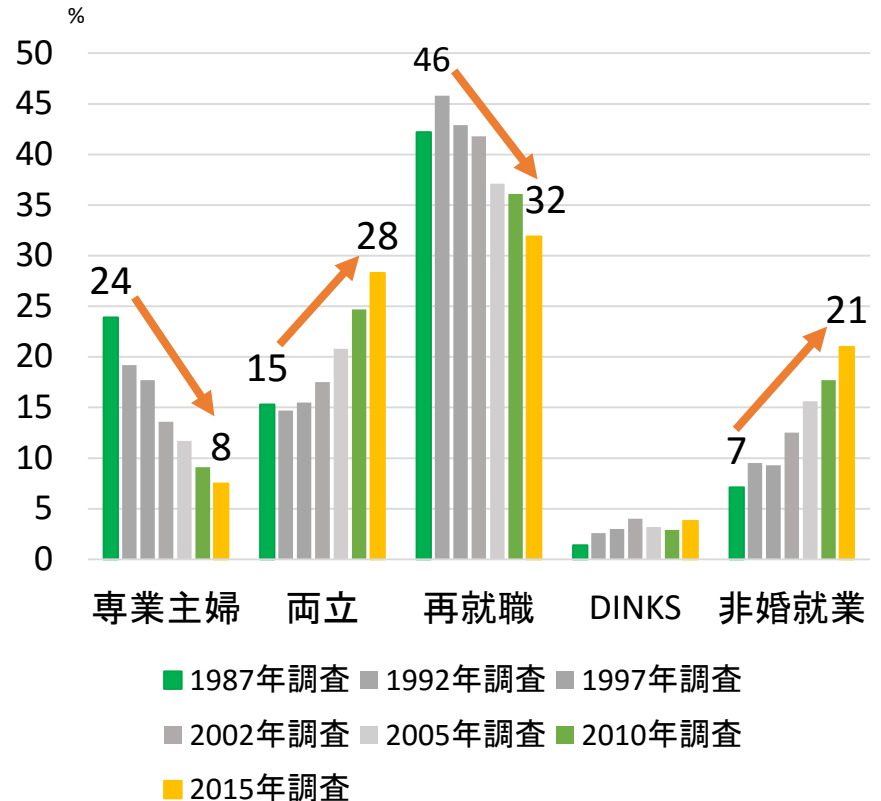
理想とする人生

質問:「あなたの理想とする人生はどのタイプですか」



実際になりそうな人生

質問:「理想は理想として、実際になりそうなあなたの人生はどのタイプですか」



(注)1987年、1992年調査時は「現実の人生と切りはなして、あなたの理想とする人生はどのようなタイプですか」、1997年～2015年調査時は「あなたの理想とする人生はどのタイプですか」。

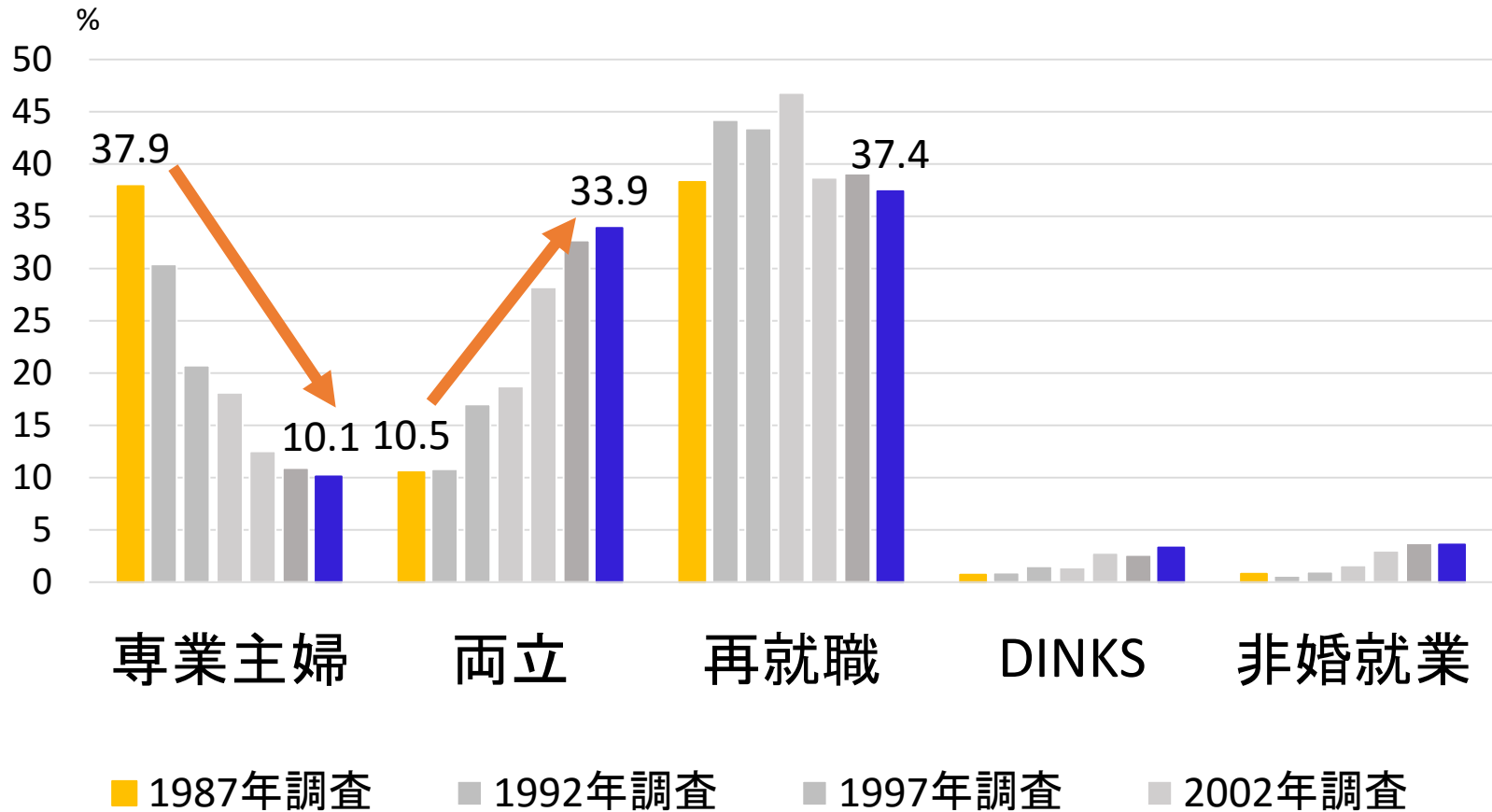
(注2)その他、不詳は除く。

(出所)社人研『第15回出生動向基本調査報告書』図表 I -3-3より作成。

(注3)1987年、1992年調査時は「これまでを振り返った上で、実際になりそうなあなたの人生はどのようなタイプですか」、1997年～2015年調査時は「理想は理想として、実際になりそうなあなたの人生はどのタイプですか」。

(注4)その他、不詳は除く。

質問:「パートナー(あるいは妻)となる女性には、どのようなタイプの人生を送ってほしいと思いますか」



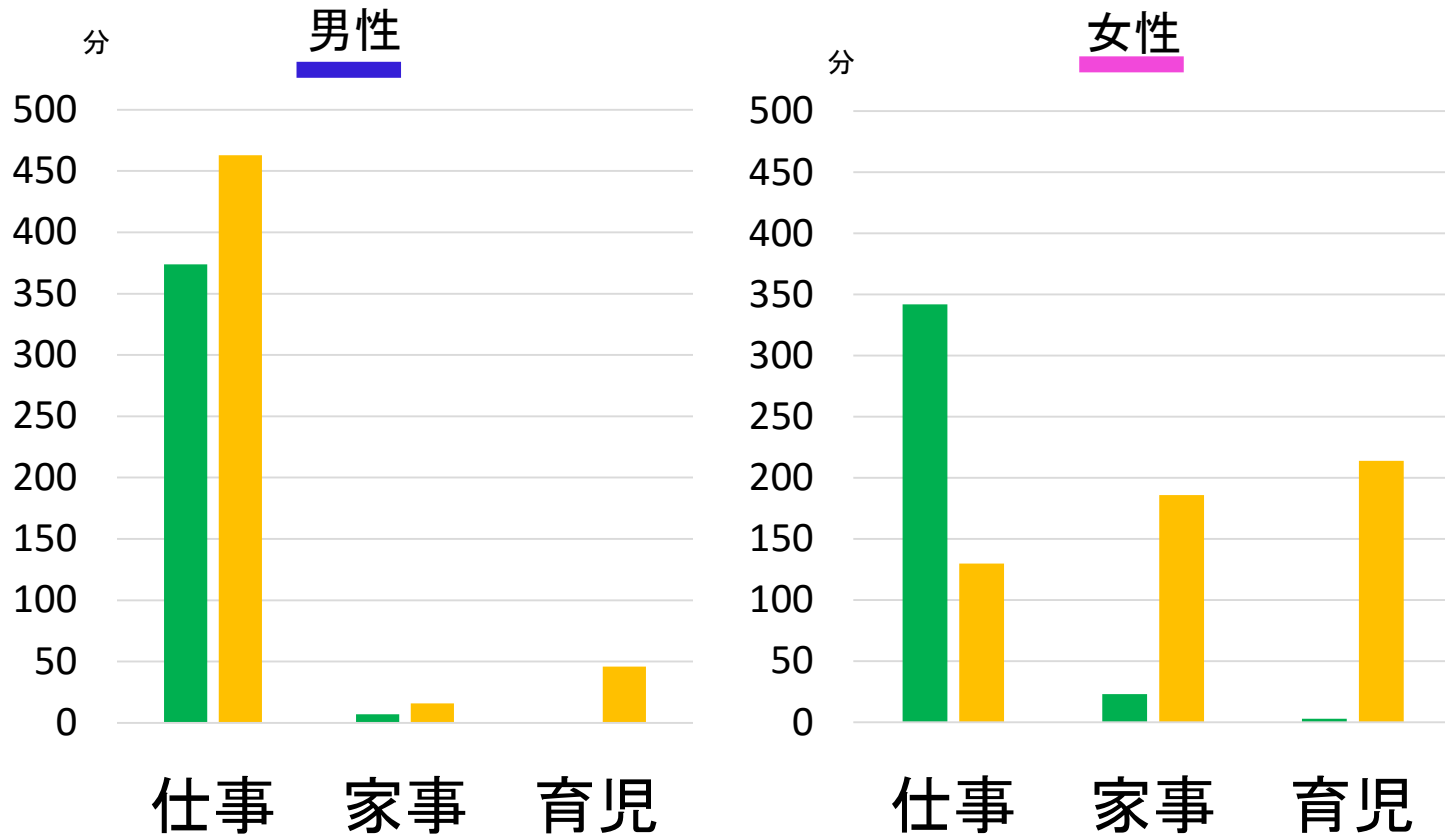
(注1)1987年～2002年調査時は、「女性にはどのようなタイプの人生を送ってほしいと思いますか」、2005年～2015年調査時は「パートナー(あるいは妻)となる女性にはどのようなタイプの人生を送ってほしいと思いますか」。

(注2)その他、不詳は除く。

(出所)社人研『第15回出生動向基本調査報告書』図表 I-3-3より作成。

独身期と子育て期の男女の時間の使い方

2016年



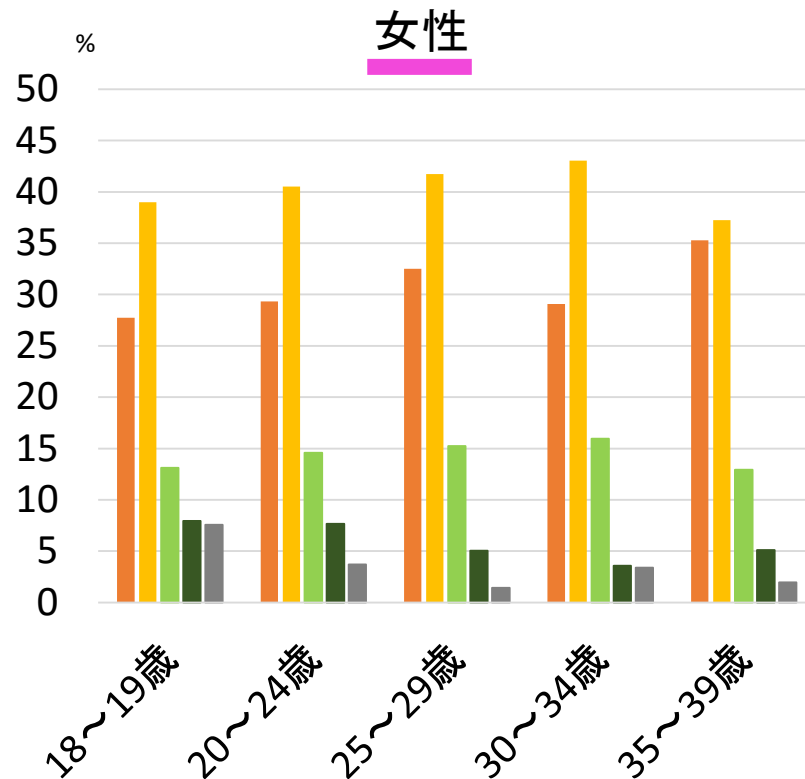
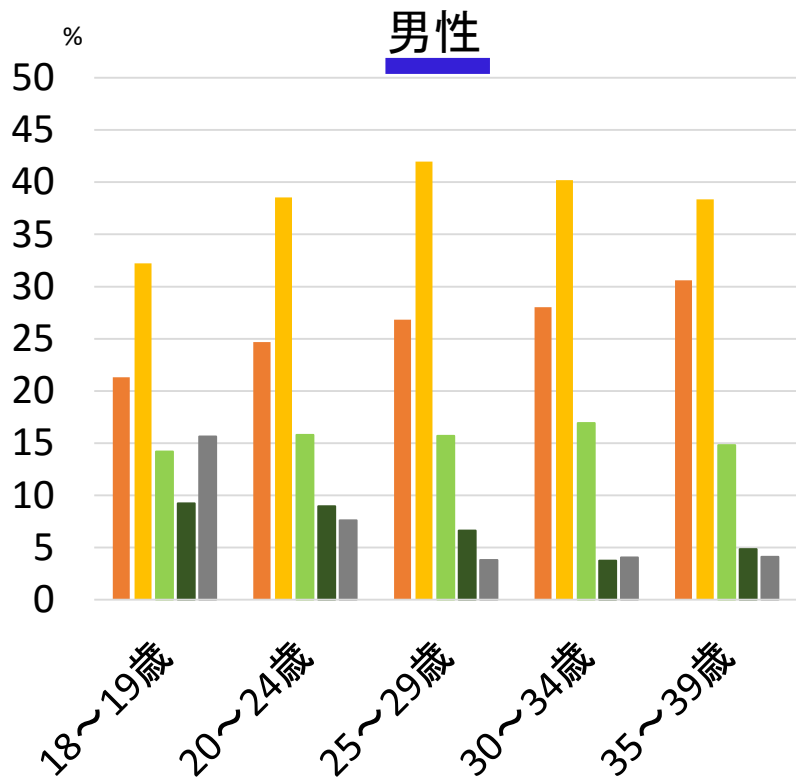
■ 独身期・35歳未満 ■ 子育て期夫婦・末子が就学前

(注1) 週全体の総平均時間。
 (注2) 「子育て期夫婦・末子が就学前」については、年齢による区切りはない。
 (出所) 総務省統計局『平成28年社会生活基本調査』より作成。

結婚、出産・子育てに関する外部意見の影響

質問:「周囲の人やマスコミから、結婚や出産・子育てはたいへんだと聞くことが多い」

2005年調査



- あてはまる
- どちらかといえばあてはまらない
- 該当しない

- どちらかといえばあてはまる
- あてはまらない

(注) 不詳を除く。第14回調査(2010年)、第15回調査(2015年)には同質問が含まれていない。

(出所) 社人研「第13回出生動向基本調査」表11-3より作成。

結婚するとなった場合の障害(2015年調査)

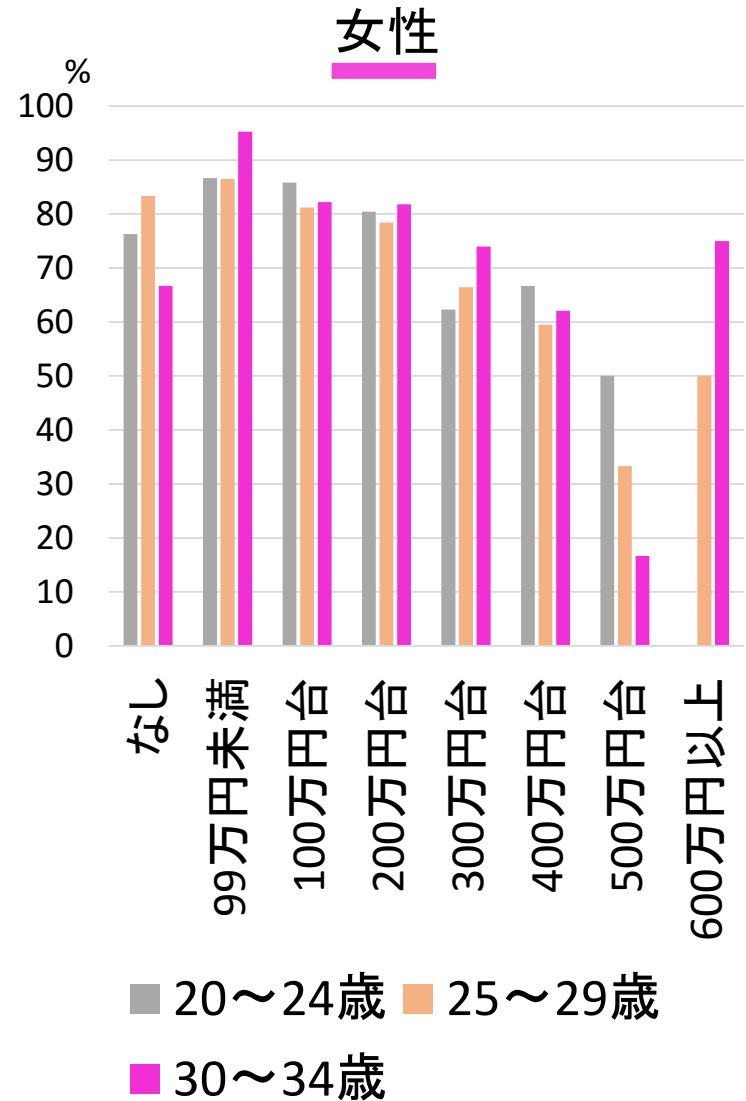
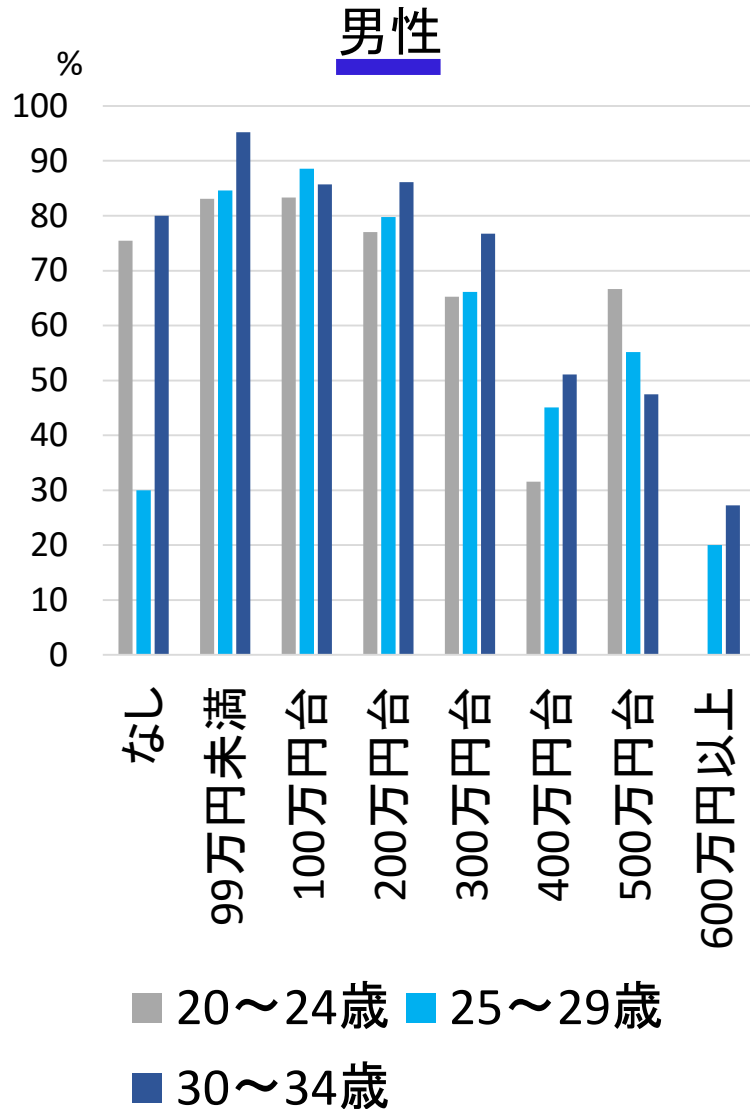
質問:「現在交際している人と(あるいは理想的な相手が見つかった場合)一年以内に結婚するとしたら、なにか障害になることがあると思いますか」

結婚の障害	男 性		女 性	
	最大	第二	最大	第二
結婚資金(挙式や新生活の準備のための費用)	781	391	655	422
結婚生活のための住居	188	386	120	274
職業や仕事上の問題	178	215	244	268
学校や学業上の問題	205	95	244	84
親の承諾	94	135	173	195
親との同居や扶養	42	82	68	100
年齢上のこと	37	89	37	78
健康上のこと	23	37	38	34
その他	24	5	29	17
「最大の障害」のみ回答	…	136	…	136
不 詳	12	13	6	6
非該当	1121		956	
総 数	2,705		2,570	

(注)18~34歳の未婚者対象。「最大の障害」「第二の障害」を回答する方式。

(出所)社人研『第15回出生動向基本調査』図表 I -1-10より作成。

年収別、年齢別の親との同居状況(2015年調査)



(注) 年収は昨年分。項目のうち、「両親死亡」「不詳」を削除した総数を用いて算出。男性・女性ともに20～24歳の昨年の年収「600万円以上」は該当者がいない。

(出所) 社人研『第15回出生動向基本調査』統計表：独身者調査のクロス集計主要結果表11-7より作成。

○女性は働き続ける、と考える人が女性でも男性でも増えている。

○女性のうち、結婚せずに働き続けることを、「理想とする人生」として選ぶ人はわずか。

しかし、「実際になりそうな人生」と考えている人は増えている。理想と現実のギャップが生じている。

- 女性は結婚相手を決めるとき、自分の仕事への理解や家事育児への協力を重視。
- 男性は妻に、働く+子育ての「両立」を希望する人が増加。しかし、男性の家事育児時間は大きく変わっていない。
- 未婚者の間で、男女とも、結婚、出産・子育ては大変だという情報が広く認識されている。
- 女性は男性よりも、相手の職業や経済力を重視・考慮している。
- 結婚生活を始める際のハードル(住居)がある。

○こうした理想と現実のギャップがある。そのギャップを埋められないままであることが、未婚につながっているのではないか。